

お忙しくても、約 2 分間で読めます

ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

「思考の三原則」に照らして判断する 渡邊 美樹 (ワタミ会長)

1. 東洋思想研究家の安岡正篤氏が唱えた、「思考の三原則」(長期的、多面的、根本的)をお手本に判断することになっている。例えばバブルの時、ある銀行から「2億円を融資したい」と言われました。のどから手が出るくらいほしいときでしたが、その銀行は「お店に使ってははいけません。投資に使うことが条件です。数ヶ月、1年でこれだけの利益が出ますよ」と、投資案件付で話を持ってきました。
2. この時私はこの話を受けるべきか、「思考の三原則」に照らして考えました。根本的に考えれば、お金を儲けるために事業をしているのではないからノー。長期的考えても、そういう(本業以外の)お金で会社にどれだけ必要なものかとしたときに、やはりこれもノーだと、多面的に考えると、額に汗してビール 1 本につき何円の世界でやっているのに、もしこれで銀行の言う通り何億円も儲かってしまったら、社員から見てもいいことはない。どう考えてもノーだということで、この話は断りました。
3. (この手の投資話に乗って)その後バブルが崩壊して大損した人はいくらもいます。私の経営の中で「思考の三原則」というのは、常に正しい答えを導き出してくれる思考法なのです。

(参考:「日経トップリーダー」2010年1月号)

幹部への活きた言葉

上司をマネジメントする

(P. F. ドラッカー)

1. 上司をマネジメントするには、いくつかのポイントがある。上司リストを作成する。本人に注文を聞く。上司の強みを生かす。報告方法を考える。不意打ちに遭わせない。上司が代わったら、コミュニケーションの仕方を変える。上司とは、自分が報告すべき相手、自分に指示を出す者、自分の仕事と仕事を評価する者、自分が成果を上げるうえで必要となる者全員である。
2. 上司が1人だった時代は、とうの昔に終わったことを認識しなければならない。そのうえ、異動があれば上司は代わる。異動がなくとも時間がたてば代わる。ドラッカーは、上司が1年以上1人も変わらないことはありえないと心得えよとまで言う。上司をマネジメントすることは、上司との間に信頼関係を築くことである。

(参考:「週刊ダイヤモンド」:2009年10月24日号)

人事・労務について

「フランクリン自伝」13カ条の教え

鎌田 浩毅 (京都大学大学院教授)

1. 米国の100ドル札に描かれているベンジャミン・フランクリン。1706年に生まれ、米国独立運動の立役者の一人となり、憲法を起草したことで知られる。彼はよい人生を送るためには、現在の悪い生き方を変えなければならないと考えていた。人生の点検を毎日繰り返すことによって、よい方向へ簡単に変わることができるかと説いたのである。
2. 「フランクリン自伝」には13カ条の具体的な点検項目が書かれている。その第1は、「飽きるほど食べてはいけない。酩酊するほど飲んではいけない」であり、第4は、「やるべきことは実行する決心をする。そして決心したことは必ず実行する」と、最後は「イエスとソクラテスの謙譲の精神を見習いなさい」。現代のビジネスマンにも直結する金言を掲げる。

(参考:「週刊東洋経済」2009年10月24日号)

古典に学ぶ

伝記を読む時期

「伝記というものは、われわれにとって、人間の生き方を教わる意味において、いついかなる時期に読んでも、それぞれ深い教訓を与えられるわけですが、しかし私の考えでは、人間は一生のうち、とくに伝記を読まねばならぬ時期が、大体二度はあると思うのです。そして第一は12,3歳から17,8歳前後にかけてであり、今一つは、34,5歳から40歳前後にかけてです」

(参考:森 信三「修身教授録抄」:致知出版社)